

義務教育学校の設置に関する検討委員会だより ⑧

東国分中学校ブロック 義務教育学校の設置に関する検討委員会

第8回検討委員会回検討委員会の概要をお知らせいたします。

- 1 日 時 令和3年6月2日(水) 17時00分～18時10分
- 2 会 場 市川市立東国分中学校
- 3 構 成 ・委員長：大学教授
(19名) ・委員：各学校(東国分中・曾谷小・稲越小)の学校運営協議会代表
- 4 内 容 ・第1回プロジェクト会議、東国分爽風学園意識調査の報告を行いました。
- 5 報告内容

※紙面の都合上、資料・アンケート結果等は概要を記載しておりますので、詳しくは市公式WEBサイトに掲載の東国分中学校ブロック、第8回検討委員会の「会議資料」「別冊資料」等をご覧ください。

【教育委員会⇒分野別情報「学校教育・学校施設」⇒義務教育学校の設置に関する検討委員会】

(1) 第1回プロジェクト会議について

- ① 日 時 令和3年5月12日(水) 9時30分～10時40分
- ② 会 場 市川市立東国分中学校
- ③ 参加者 ・各学校(東国分中・曾谷小・稲越小)の校長・教頭・教務主任
(18名) ・教育委員会(指導課・学校環境調整課)の担当者
・オブザーバー：大学教授(義務教育学校の設置に関する検討委員会委員長)
- ④ 内 容 i. 東国分爽風学園のグランドデザインについて
ii. 今後の進め方について
- ⑤ 会議の概要

i. 東国分爽風学園のグランドデザインについて

令和3年1月に、東国分中学校ブロック小中一貫型小学校・中学校に関する基本計画を策定し、令和3年度より「東国分爽風学園」がスタートしました。この東国分爽風学園の学園目標や今後取り組む大きな柱、グランドデザイン(全体構想)を整理するため、意見交換を行いました。

【柱に関する意見】

- 学力向上を考えるとユニバーサルデザインを取り入れた学習環境を整えていくことが一番のポイント。9年間の積み重ねが重要だと思います。
 - 3校が今まで以上に子どもの学習状況や生活状況などを情報共有できると良いです。
 - 先生方に温度差がありますが、総合的な学習の時間など系統的な学習を通して子どもたちが学びあう様子を見ることができたら、先生方も見方が変わるかもしれないし、その活気が地域にも反映されると思います。
 - 2校の小学校は、足並みを揃えていくことが大事です。学習の進め方などやり方が違うと中学校の先生には負担になると思います。
 - 働き方改革で、情報を共有して進めていく理念は、とても期待しています。
 - 先生方の交流を進めていくことが先だと考えます。教務主任から積極的に交流していく必要があります。
 - それぞれの学校の特別支援コーディネーターが集まり作成した手引きもあるので、ユニバーサルデザインの視点から活用することが大事だと思います。
 - この地域は人材が豊富。コミュニティスクールの取り組みを活用できると良い。
- ii. 今後の進め方について
- 今回は、グランドデザインの柱について、意見をもとに8項目を整理します。
- ①学力、②生徒指導、③協働授業、④小中連携、⑤働き方改革、⑥小中の交流、⑦特別支援体制、⑧地域・学校運営協議会

(2) 東国分爽風学園で実施した意識調査について

小中一貫教育の推進を通して、児童生徒の健全育成及び学校教育の充実を図るために実施した、意識調査（アンケート）の結果について報告しました。

今後も継続してアンケートを実施させて頂き、その結果については、東国分爽風学園の義務教育9年間を見通した教育活動の充実及び各小中学校間の連携の推進に生かしてまいります。

（次回は年度後半（令和4年1月頃）に予定しております。）

調査対象数	曾谷小学校、稲越小学校の小学3～6年生	395人
	東国分中学校の中学1～3年生	311人
	3校の教職員	56人
	保護者	509人

児童生徒（調査対象数：小学生395人、中学生311人）

◆現在の学校生活に関する質問

観 点	アンケート内容	小学生の回答数	中学生の回答数
教育課程の効果	(1) 授業では、自分から積極的に参加していると思う。	315人	261人
	(2) 授業では、自分の意見や考えを、学級やグループに伝えられていると思う。	315人	261人
	(3) 話し合う活動を行うことで自分の考えを深めたり広げたりできていると思う。	287人	254人
	(4) 授業で学習したことを、次の学習内容や他の学習に生かしていると思う。	330人	249人
教科担任制の効果	(5) 学習することは好きである。	297人	178人
	(6) 学習の内容がよくわかる。	350人	254人
	(7) 学習の内容がわかると、やる気が出る。	358人	272人
	(8) 先生は、質問などに対してわかりやすくアドバイスしてくれる。	357人	253人
自己肯定感、思いやりの心の育成	(9) 自分には良いところがあると思う。	333人	221人
	(10) 先生は、良いところを認めてくれる。	371人	268人
	(11) 友だちや別の学年の子が困っていたら、助けてあげたいと思う。	359人	285人
	(12) 友だちと話しているとき、相手の気持ちになって会話している。	304人	263人
問題行動の防止	(13) 嫌なことがあったとき、友だちや物にあたることはない。	306人	228人
	(14) 友だちが迷惑をかけるようなことをしていたら注意できる。	329人	239人
	(15) 気軽に相談できる友だちや大人がいる。	349人	267人
	(16) アドバイスや注意をしてくれる友だちがいる。	331人	267人

【傾向と考察】

○「教育課程の効果」では、小・中学生ともにいずれの質問も約7～8割が肯定的な回答を選んでおり、現在の教育課程に意欲を持って取り組んでいる自覚のある子どもたちの割合が多い結果となりました。

○「教科担任制の効果」では、(5)の質問に対して、小学生は約8割が肯定的に回答しているのに対し、中学生は約6割でした。

○「自己肯定感、思いやりの心の育成」では、(9)の質問に対して、小学生は約8割以上が肯定的ですが、中学生では約7割でした。

○「問題行動の防止」では、(13)の質問では、年齢が上がるにつれて、嫌なことがあったときに、友だちや物にあたる児童生徒が増えていることがわかりました。

○小中一貫教育によって、どのように児童生徒たちの意識が変わっていくのか、また、小学生と中学生の交流活動を行うことによる、問題行動の防止の効果について注目していきます。

◆ 中学校への進学に関する質問（小学生のみ実施）

アンケート内容	回答数
(1) 中学校へ進学することについて、特に不安はない。	306人
(2) 中学校の勉強のことについて、特に不安はない。	279人
(3) 中学校での友だちのことで、特に不安はない。	313人

【傾向と考察】約8割の子どもが、肯定的に回答している一方で、残りの約2割の子どもたちが不安を感じており、小中一貫教育の実施による不安を抱える子どもたちの減少に、注目していきます。

◆ 「新しい教科」の設置についての質問

どんな教科をつくって学びたいか、次の中から3つ以内で選んでください。() 回答数：小・中合計

市や地域の歴史 (145人)	防災のこと (224人)	環境のこと (191人)	食や健康のこと (160人)	情報のこと (233人)
文化・芸術のこと (213人)	福祉のこと (132人)	植物や動物のこと (273人)	他の国のこと (170人)	その他 (41人)

教職員 (調査対象数56人)

◆ 現在の教育活動に関する質問

観 点	アンケート内容	回答数
授業の改善	(1) 学級だけでなく、学年や他学年の先生方と連携して授業を行っている。	49人
	(2) 他の教科や別の学年とのつながりを意識して授業を行っている。	53人
児童生徒への理解の深まり	(3) 子どもたち一人一人の特性に応じた生徒指導をしている。	54人
	(4) 子どもたちを褒めることが多い。	54人
	(5) 子どもたちは、自己肯定感が高い。	28人
	(6) 子どもたちは、問題行動や不登校の数が少ない。	29人
協働体制の構築	(7) 自分の学年だけでなく、他の学年とも連携して授業や生徒指導を行っている。	48人
	(8)トラブルがあった場合は、学年だけでなく、他学年の先生方や管理職と連携して対応している。	51人
	(9) 授業は、一人で行うよりもティーム・ティーチングなど、複数で行う方が、効果がある。	51人
校務の効率化や質的な向上	(10) 担当している校務(校務分掌など)は、複数の先生方と協力して行っている。	50人
	(11) 担当している校務は、効率的にできている。	40人
	(12) 担当している校務は、負担ではない。	37人

【傾向と考察】

○「授業の改善」では、いずれの質問に対しても、約9割が肯定的に回答でした。

○「児童生徒への理解の深まり」では、(3)、(4)の質問において、ほぼ全員が肯定的な回答だった一方、(5)(6)の質問では、肯定的な意見は約5割に留まりました。子どもたちへのアンケートでは、自身が感じている自己肯定感が高い結果でしたが、先生方は、子どもたちの自己肯定感、あまり高くないと感じていることがわかりました。また、問題行動や不登校について、小中一貫教育の実施によってどう変化していくか注目していきます。

○「協働体制の構築」では、約9割が肯定的に回答し、授業や生徒指導の連携が図られていると認識している教職員が多いことがわかりました。

○「校務の効率化や質的な向上」では、(10)の質問では、約8割、(11)、(12)では、約7割が肯定的に回答しました。

◆ 質問「小中一貫教育の導入による子どもたちの成長への効果があると思いますか」() は回答者数

思う(7人)	どちらかといえば思う(42人)	どちらかといえば思わない(10人)	思わない(0人)
--------	-----------------	-------------------	----------

【傾向と考察】 約8割の先生方が、小中一貫教育の導入は、子どもたちの成長にとって効果があるとの回答で、効果があると思わないと回答した先生はいませんでした。

また、期待される効果として、「中一ギャップの解消」、「子どもの発達に対する教員の認識が深まる」、「学習活動の充実」「教員の児童生徒理解の深化」、「部活動の活性化」などが多く選択されました。

保護者 (調査対象数509人)

◆質問「小中一貫教育は、子どもたちの成長にとって効果があると思いますか」(()は回答者数)

思う(68人)	どちらかといえば思う(369人)	どちらかといえば思わない(57人)	思わない(15人)
---------	------------------	-------------------	-----------

【傾向と考察】 子どもたち人の成長への効果として、約8割の保護者が、肯定的な回答でした。期待される効果として、「小中学校間の接続が滑らかになる。(中一ギャップの緩和)」「年齢の離れた児童生徒の交流により、自己肯定感の高まりや思いやりの心が育まれる」「小学校と中学校の教員が、連携して児童生徒の指導を行うことで、子どもの発達の理解が深まり、生徒指導の面で活かされる」「小学校段階からの教科担任制や複数教員による授業などにより、学力の向上が図られる」などが多く選択されました。

◆その他、「小中一貫教育」への意見について

<小中一貫教育への期待>

- ・学力向上
- ・不登校への対応
- ・小中学生の交流
- など

<小中一貫教育への不安>

- ・他の学校との連携や学区
- ・校舎
- ・小中一貫教育の弊害
- ・教師の負担
- ・特別支援教室、放課後保育クラブに関して
- など

(3) 委員からの意見等 (○：委員長及び委員 ●：事務局)

【プロジェクト会議について】

- 東国分爽風学園がスタートして、どういう学校にしていきたいか、を中心に話を進めております。3校の教員、児童生徒が共に学び協力できる理想と現実を合わせて今後進めていければと考えております。
- 地域や保護者の方にわかりやすい行動になるように考えています。3年後どのように進んでいくか慎重に時間をとって検討を進めていきたいと思っております。
- 現在、ランドデザインの作成を進めておりますが、何のためのものか、原点を忘れないように進めていきたいです。一番の原点は、児童生徒のためです。実態にそぐわないのはいけません、より一層の連携を強化して一体感をもって、心ひとつに進めていければと思っております。

【意識調査について】

- 6年生は、小学校の最高学年としての気概、抱負がありますが、一緒になることで、その気概等がどうなるか調べてもらえればと思っております。また、塩浜学園の例があるので、ぜひ教職員、保護者の方々も交流されればと思っております。先人に学ぶ機会があればと思っております。最後に、これは要望ですが、できれば、交流の場面、小中学校が一緒に活動している場面があれば、ご披露いただければと思っております。
- 詳しくはプロジェクト会議等で検討してまいりますので、現状でお答えできる範囲でお答えいたします。6年生の最高学年としての意識については、施設一体型の塩浜学園と比較しながら調査をしていきたいと思っております。また塩浜学園との交流については、すでに運営協議会に話をしておりますので、新型コロナウイルス感染症の拡大状況も見ながら、今年度は実施ができればと考えております。
- 1点、コミュニティスクールの取り組みの活用とありましたが、今後、爽風学園として動き始める中で、学校運営協議会は、3校が集まってやっていくのか。それともそのままの形でいくのかお伺いします。
- 3校で1つの運営協議会とする必要性等も含め検討を進めております。今後、また情報を提供できればお伝えしていきます。

お問い合わせ先(事務局)：市川市教育委員会 学校教育部 学校環境調整課

Tel：047-702-5355/Fax：047-383-9203

保護者向けの「意識調査」でご質問いただいた内容について、回答いたします。

<通学区域・転出入について>

Q 1 東国分爽風学園の3校に含まれない小学校（国分小学校、中国分小学校）から、東国分中学校の通学区域内の住所に住んでいれば、東国分中学校へ進学できるのか？

A 1 東国分爽風学園（通称）は、現在の枠組みのまま、義務教育学校の特例制度を活用できる「小中一貫型小学校・中学校」として、今年の4月よりスタートしました。
東国分中学校、曾谷小学校、稲越小学校の3校の通学区域も現在のままとなることから、東国分中学校の通学区域内にお住まいのお子さんは、東国分中学校へ通うこととなります。

Q 2 今後、通学区域はどのようになっていくのか？

A 2 本市では、義務教育9年間を、切れ目なく一貫して教育できる、小中一貫教育の実施を市内全体で目指しており、小中学校の通学区域についても一致していることが望ましいと考えております。そのため、校舎の建替えを行う際を基本に、通学路の安全性等や自治会等の区分に留意しつつ、小中学校の一致を目的とした通学区域の見直しの検討を進めていきます。

<小中一貫型小学校・中学校の実施内容について>

Q 1 東国分爽風学園では、中学校の学習内容を小学校段階に前倒しをして学習することもできるとあったが、東国分爽風学園の3校以外の小学校や中学校から転入や転出する場合に、支障は出ないのか？

A 1 今後、3校で学習内容の前倒しや入れ替え等を実施していくとなった場合、他の小学校や中学校から転入するお子さんに対して、また、転出するお子さんに対して、通常の学習時間とは別の時間で補習授業を実施することや学習内容のガイダンス等を行い、学習に差がでないように対応していきます。

Q 2 小学校段階からの教科担任制の導入が可能とあるが、小学1年生から行うのか？

A 2 教科担任制を既に実施している自治体では、小学5年生から実施しているところが多く、本市の義務教育学校「塩浜学園」でも、5年生から導入しています。

小学5年生から実施している理由としては、学習内容において、小学校低・中学年までの経験的な理解から、小学校高学年からは理論的・抽象的な理解が必要になるため、より専門的な指導によって、児童の理解が深まること。また、中学校に入ると、生活環境の変化や学習内容がより難しくなることで、学校生活に不適合を起こす「中一ギャップ」の解消にもつながることが、実施している自治体の成果として報告されています。

今後、東国分爽風学園でも導入するとなった場合は、先行実例を参考にしながら検討していきます。

Q 3 運動会などの行事は、どのように実施していくのか？

A 3 校長、教頭、教務主任を含む教職員の代表からなる「プロジェクト会議」にて、教育委員会もサポートをさせていただきながら、3校の実態に合わせて、行事などを含めた実施できる内容を検討し、順次実施していくこととしています。

検討している内容や、実施することとなった内容については、その都度お知らせをしていきます。

Q 4 令和3年度から令和5年度までの3年間で、研究期間としているが、その後はどうなっていくのか？

A 4 3年間で得られた成果と課題を基に、3校の学校運営協議会の専門部会からなる「東国分中学校ブロック 義務教育学校の設置に関する検討委員会」にて、令和6年度以降、施設一体型の義務教育学校としていくのか、あるいは、小中一貫型小学校・中学校のままとするのか、その後の方向について協議していきます。

Q 5 3校の体制は現在のままということだが、小中一貫型小学校・中学校となることで、全てを一つにしてしまうのか？それぞれの学校の特徴は残せないのか？

A 5 3校で同じ目標に向かって、義務教育9年間を一貫して教育していくことを目指していますが、学校の特徴も含め、それぞれの学校で行う方が、子供たちの教育に効果があることについても、3校の先生方で構成しているプロジェクト会議で検討し、実施していきます。

Q 6 小学6年生が、小学校のリーダーとして活躍する経験ができないのではないか？

A 6 小中一貫型小学校・中学校は、現在のままの体制ですので、各小学校の6年生が、運動会などの行事や委員会活動の中心となって活躍することに変わりはありません。

Q 7 3校で実施できる内容から順次実施していくとあるが、今年度の途中で全てが変わるのか？

A 7 今年の4月より、3校の教職員からなるプロジェクト会議を立ち上げ、話し合いをスタートしました。今年度一年間をかけて、プロジェクト会議で話し合いを行い、実施できる内容から順次実施していきますので、今年度の途中で全てが変わることはありません。

<施設一体型の義務教育学校の設置について>

Q 1 施設一体型の義務教育学校となる場合は、いつごろ実施できるのか？

A 1 施設一体型の義務教育学校とする場合は、現在進めている学校の建替えの順番に沿って、令和12年度完成を目途に施設整備を検討していきます。

Q 2 施設一体型の義務教育学校となる場合は、どこにできるのか？

A 2 施設一体型の義務教育学校の設置の是非と併せて検討していきます。現段階でどこに設置するかは決まっていません。



この件の内容につきまして、何かご質問等ございましたら、右記までお問い合わせください。

市川市教育委員会 学校教育部 学校環境調整課
TEL : 047-702-5355
FAX : 047-383-9203